

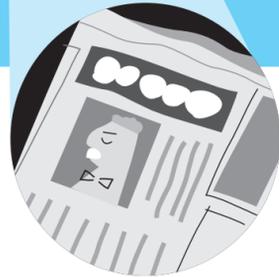
もっと、ビジネスへ。もっと、使える。

DB to B 徹底活用

【人事を知って好機と成す】
2002年10月の提供スタートから、毎日更新中！

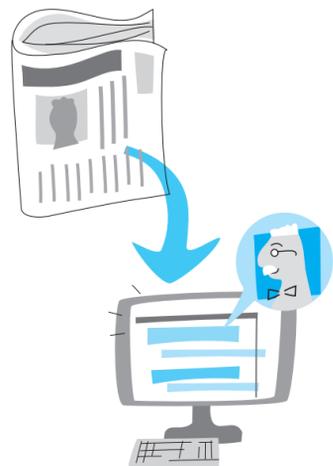
「朝日新聞人物データベース」

「朝日新聞人物データベース」は、朝日新聞社が収集した各界で活躍する人物のプロフィールを集めたデータベースです。G-Searchならではの豊富な検索項目と、毎日更新される人物情報をトップページでリストアップする機能を搭載。G-Search人物横断検索でもご利用いただける人気ファイルです。



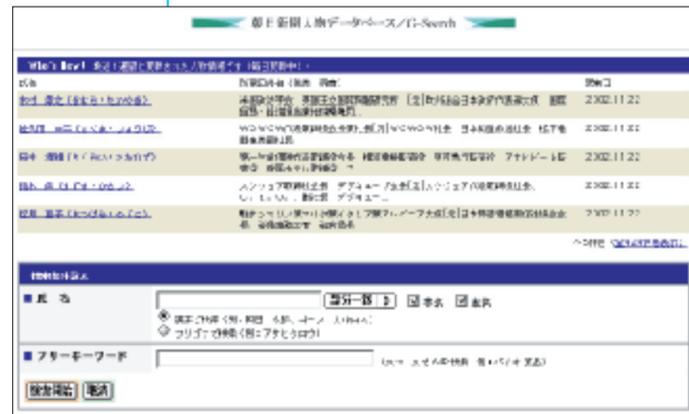
● 初登場はもちろん、人事異動も原則的に新聞掲載の翌日に反映

今まで人物データベースに収録されていなかった人が、ある日突然に脚光を浴びることがあります。その好例が、昨年ノーベル化学賞を受賞した島津製作所フェローの田中耕一さん。受賞するまでは、新聞記事にも一度も取り上げられることがありませんでした。ところが受賞の翌日には「朝日新聞人物データベース」に収録、翌々日から閲覧できるようになり、受賞後もバイオインダストリー協会特別名誉賞、京都府特別栄誉賞、文化勲章、富山県名誉県民と賞を受けるごとにデータが更新されました。このように、朝日新聞で確認できる初登場の人はもちろん、人事異動や死亡情報なども原則的に新聞掲載の翌日に反映しています。



● 「今、注目されている人」も含め、最新1週間の更新リストを表示

「時の人」を見逃さないためにも、毎日更新される最新人物リストはチェックしておきたいもの。G-Searchは、検索トップ画面に「最新1週間に更新された人物リスト」をそのまま表示しているので、「ビジネスストップの異動やおくやみ情報」などを常にウオッチするためにも、大いに効果的です。また、年1回のデータ更新でデータが新しくなった人も、もらすことなく表示しています。【図1】

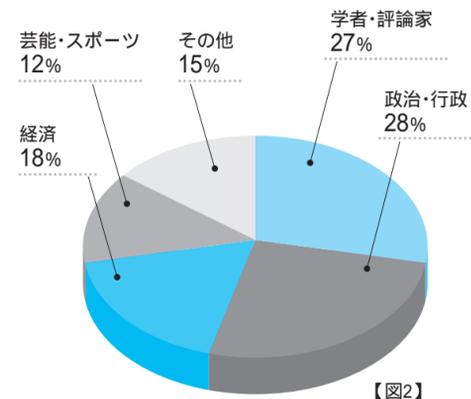


【図1】

● 収録対象は学者を中心に3万人！

学者を中心に政治、行政・司法関係者、経済人、評論家、スポーツ関係者など幅広く収録しています。昨年の12月時点で、約3万人のプロフィールデータが収録され、その割合は【図2】の通りです。

グラフからご理解いただけるように、学者や評論家といった民間で活躍している人を広く収録。しかも研究テーマやその活動はフリーキーワードで検索することができます。



【図2】

● 思わぬ発見ができる、豊富な検索項目

フリーキーワードを使うことで、例えば「アフガニスタン」と入力すると大使だけでなく、アフガニスタンに関する著作のある人やジャーナリストも検索できます。また、分野別の分類コードを活用して、関係者を選び出すことも可能です。

● プロフィールに収録されているプラス情報

氏名(本名、芸名、筆名)、生年月日、出身学歴、現職などの基本情報に加え、専門分野、連絡先、ホームページのアドレスも表示。主な著作、訳書も紹介しているので、学者や作家の業績をたどることも可能です。また、現職の国会議員(例【図3】)、都道府県知事、市長、県会議員は政党や所属党派、選挙区、当選回数も表示しています。

【図3】

● IPワンポイントトーク

朝日新聞社の一線記者が参考にするために作成されたデータベースですので、更新の速さには自信があります。また、データの正確さを期するため、毎年1回は収録者にデータの確認をお願いしています。記事データベースとも合わせてご利用いただくのが効果的です。

また、政治家や行政関係者など公的な職務についている人や、著名な人は公表されている資料に基づきデータを公開しています。ただ、個人情報保護を第一に考え、公開するデータは収録者のご理解を得ることにしていますので、収録項目は人物により異なりますのでご了承ください。

朝日新聞社 電子電波メディア本部データベースセクション次長 中川 聡(なかがわ さとし)

● IP ONE POINT TALK